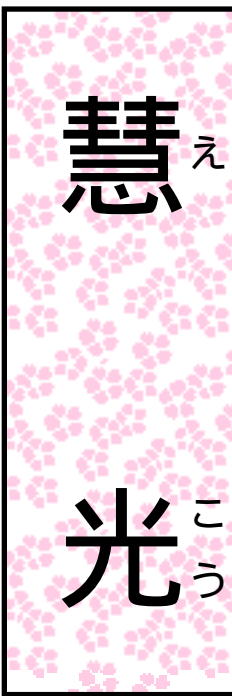




毎年、秋の訪れを告げてくれます 百日紅 (8月9日撮影)



金光寺寺報
第194号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月法語カレンダーのことは

こんごうしん ぼだいしん しん たりき
金剛心は 菩提心 この心 すなわち 他力なり

8月の法語は、『高僧和讃』「天親讃」の中の一つ、信心すなはち一心なり 一心すなはち金剛心 金剛心は菩提心 この心すなはち他力なり の後半部分です。

現代語に訳してみると、「真実の信心は、すなわち一心である。一心は、すなわち金剛心である。金剛心は、菩提心である。この心は、すなわち他力(阿弥陀仏のはたらき)である」となります。

「信心すなはち一心なり」の「信心」とは、親鸞聖人の明らかにしてくださった信心、真実の信心のことです。この信心は、私が信じる心ではなく、阿弥陀さまの救いのはたらきを疑いなく受け容れた心(状態)のことで、本願力回向の信心(他力回向の信心)ともいいます。こ

の真実の信心が「一心」であるというのです。この一心は、私が作り上げた心ではなく、阿弥陀さまの心です。

よって、「一心すなはち金剛心」と、「一心」は決して壊れることのない心、金剛心であるというのです。

続いて、「金剛心は菩提心」とあるように、金剛心は、さとりを求める心、菩提心であるというのです。

最後に「この心すなはち他力なり」と結びます。信心といい、一心といい、金剛心といい、菩提心といった心は、すなわち他力(阿弥陀さまのはたらき)であると結論づけているのです。信心も一心も金剛心も菩提心も、私の心ではなく、阿弥陀さまの心なのです。阿弥陀さまのはたらきが届いた姿なのです。ここに親鸞聖人の深い思いがうかがえます。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

8月 18日(金) 午後 後日
22日(火) 終午 前
28日(月) 午 前

9月 14日(木) 終 日
27日(水) 午 後

10月 21日(土) 午後 ~ 22日(日)



ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
8月9日現在 アクセス数 79,547人

先日十七日に発生した台風五号にやきもきしましたね。進路速度が遅く、五日に開催予定だった高千穂組仏教夏季講座は中止になりました。会場だった桑野内の光照寺さんは早くから準備をされ、渡り廊下を新設されるなどとお迎えの準備が出来上がっていましたのでさぞや残念だったでしょう。鞍岡には六日に台風の影響が一番ありましたね。当山は落ち葉は当然のことでしたが、花手毬の木が県道に倒れ込んでいました。翌七日、息子と添え木をして起こしたり、家族四人で境内の掃除をしていました。午後からの雨で途中でやめました。しかし、翌八日、十一区高齢者クラブの皆さん、金光寺仏教婦人会役員の皆さん、当山お隣の男性の方のご協力をいただき、境内地の清掃奉仕作業を行っていただきました。約三時間ほどで見違えるようにきれいにしていただきました。ご協力ありがとうございました。今年が台風発生が多かったです。今年が台風発生が多いのはどの予ければと思っております。(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

不退転

「政治改革の推進には、不退転の決意で取り組んでいく」海部首相の施政方針演説です。不退転の決意とは、志を固く保持して、決して屈しない決意

という意味です。「不退転の決意で、この難局を乗り切る所存」などと、政治家の演説によく登場する語句です。

この「不退転」が仏教語です。古代インド語の「アヴァイヴァルティカ」の訳で、不退とか無退とかとも訳されています。文字通り、退転しないことで、仏道修行の過程で、すでに得た功德を決して失うことがないこと、もはや後退することがないことをいい、その位を不退の位とか、不退転地といいます。浄土真宗では、他力信心を得

たものは、この世において、正定聚不退の位につき、必ず仏に至るに定まると説きます。だから『浄土和讃』はいいま

す。真実信心つるひとはすなはち定聚のかずにいる不退のくらゐにいらぬればかならず滅度にいたらしむ政治改革、よろしくお願います。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇 PART 一から)

住職ひとりごと

阿弥陀仏の薬

今年の一月から蘇陽病院のお世話になっていました。四週間に一度整形外科の診察を受け、週に二回を目標にリハビリの治療を受けています。それに加えて、七月はじめから胸痛を時々感じ、循環器科の診療も受けました。応急対応として舌下錠の薬もいただき、ただ今、常備しています。

整形外科の方は診断を信じて毎食後の薬服用とリハビリを続けています。おかげで左上腕部の痛みはかなり改善してきましたが、しびれはまだまだ続いています。

循環器科の方は、幸いにして薬のお世話になるほどのことはない状態です。

このような状況になるとは思っていませんでした。加齢によるものなのか分からず、今はただ懸命に病と向き合っています。

こんな体験をし、親鸞聖人ご著作に「薬」が使われているご文を思い出しました。『末燈鈔』(末)第二十通に

もとは無明の酒に酔ひて、貪欲・瞋恚・愚痴の三毒をのみ好みめしあうて候ひつるに、ほとけのちかひをききはじめしより、



無明の酔ひもやうやうすこしづつさめ、三毒をもすこしづつ好まずして、阿弥陀仏の薬をつねに好みめす身となりておはしましあうて候ふそかし。

とあります。私たちは、物事のありのままの姿 実相 をありのままにみようとせず、常に好悪・美醜などの偏見や先入観を以って物事を眺めています。

私の心と対象が一致すれば(順)愛をおこします。それは貪欲といわれるむさぼりの心につながります。

逆に私の心と対象が相違すれば(違)憎をおこし、それは瞋恚といわれるいかりの心につながります。これを愛憎(違順)といえます。むさぼりやいかりの心に加えて愚痴(おろかさ)の心もこの身にはあります。

私たちは一貫して無明や三毒の煩惱の中にその存在がある状態です。しかし、阿弥陀仏のご本願に出遇うと無明の

酔いが少しづつ醒めて、三毒の煩惱の中にその存在があることを好まなくなっていくと親鸞聖人はお示しく下さいます。そして、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっていくともお示しく下さいます。

それは無明の闇のなかにどっぷりとその身を浸からせているこの私を救うためにご用意くださった救いのはたらき「南無阿弥陀仏」の六字のお名号であり、撰取の光明であります。

私たちは死ぬまで煩惱から離れることはできません。離れようとしても離れることのできない身ですが、その身を本願のはたらきは撰め取り、捨て去られることはありません。

それは「ほとけのちかひをききはじめし」時にはじまり、その時より「阿弥陀仏の薬」お名号を、撰取の光明をつねに好む身とならせていただくのです。

法語の世界

〈原文〉

蓮如上人仰せられ候ふ。弥陀の光明は、たとへばぬれたる物をほすに、うへよりひて、したまでひることくなることなり。これは日の力なり。決定の心おこるは、これすなはち他力の御所作なり。罪障はことごとく弥陀の御消しあることなるよし仰せられ候ふと云々。(蓮如上人御一代記聞書 二二九)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「弥陀の光明のはたらきは、たとえていえば、濡れたものを干すと、表から乾いて、裏まで乾くようなものである。濡れたものが乾くのは日光の力である。罪深い凡夫にたしかな信心がおこるのは、弥陀のおはたらきによるものである。凡夫の罪はすべて弥陀の光明が消してくださるのである」と仰せになりました。

《用語の解説》

ひて……干て。乾いて。御所作……おはたらき。

盆踊り開催のお知らせ

盆踊り大会を8月14日夕方から鞍岡地区盆踊り保存会の主催で金光寺境内にて開催いたします。

バザーや抽選会などの催し物も企画されております。ご家族お揃いで多くの方のご来場をお待ちいたしております。



秋季彼岸会法要のお知らせ

九月二十三日(土) 午前十時

金光寺本堂 正信念仏偈(草譜) 和讃六首引き
金光寺衆徒 松井 慧師

彼岸会法要にご参詣の方はお経本をご持参ください。お経本をお持ちでない方は金光寺にあります。彼岸会法要は金光寺仏教婦人会例会になっております。仏教婦人会会員の皆さまのご参詣をお願いします。一般の方々のご参詣もお待ちしております。